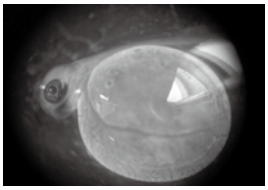
連載・青少年健全育成シリーズ　第292回

「自然は　人間の苗床」



「うわー　すごい」

歓声を上げる子どもたちの手の中には四〇㎝を越える魚体。お腹を絞られるのを、力強くはねのけようとするメスのヤマメだ。渓流の宝石とも称えられる都留の清流で育ったヤマメである。タオルで頭を押さえ、エラの下から尾びれへ向かい腹を絞っていくと、キラキラと黄色く光る卵がざるの中へと飛び出していく。その後、オスの精子をかけ回し、都留の湧水の中で受精させる。五分ほど経つと、その黄色は輝きを増し、受精膜で覆われる。まさしく「命」の誕生である。残念ながら「命」が生まれなかった卵は白濁する。子どもたちの目には、黄色の輝きが命の色として焼き付き、廊下の発泡スチロールの箱の中に伏せられる。親のヤマメは、産卵とともに「死のスイッチ」が入り、その命は八〇〇余りの受精卵へと引き継がれる。来年の三月まで、毎日子どもたちが運んでくる氷で水質と水温を守られ、成長していく受精卵は、積算水温三五〇℃を越えると発眼し、命の鼓動を観察することができる。十二月に入ると卵は孵化し、ちょろちょろと箱の底に固まっている。新年を迎える頃には、うっすらとパーマークが現れ、餌付けとともに、二月頃には、魚体は五㎝まで成長する。三月、いよいよヤマメの卒業式。子どもたちの手により鹿留川や桂川に放流される。自然豊かな都留市だからこそ行える体験活動だと思う。

「自然は　人間の苗床」という言葉がある。幼児期から自然とのふれあいを多く持たせることで、子どものみずみずしい感受性や五感を刺激することが不可欠だということである。子どもたちに生涯消えることのない「センス・オブ・ワンダー（神秘さや不思議さに目を見張る感性）」を持たせ続けることの重要性を説いているレイチェル・カーソン（海洋生物学者）は、「子どもたちが出会う事実の一つひとつが、やがて知識や知恵を生み出す種子だとしたら、様々な情緒や豊かな感受性は、この種子を育む肥沃な土壌。子ども時代は、まさにこの土壌を耕すときである。」と述べている。また、自然体験を通して得られる自尊感情、共生感、関心意欲、規範意識、人間関係は、思いやり、やる気、人間関係能力等の資質を高めているという調査結果もある。都会の良さのみを追い求める社会の変化に、揺れ動かされる子どもたち。今、自然の豊かな恵を享受する体験の必要性が叫ばれる。

このヤマメの命は、ちょうど十五年前、都留の小学校の一つの教室から誕生し、現在まで繋がっている。

青少年の声かけあいさつ運動の推進
『大人も子どももすすんであいさつをしよう』

毎月第１日曜日は「家庭の日」
毎月第３日曜日は「青少年を育む日」です。
青少年育成都留市民会議編集委員

広報「つる」広告募集！

あなたのお店の広告を広報つるに載せてみませんか？
広報「つる」は、都留市内の各家庭に配布されています（10,500部発行）ので、多くの方の目に触れます！

問合先：総務課　法制広報担当

広告料金

掲載場所	印刷色	金額 / 枠	備考
裏面	カラー	20,570	２カ月掲載
内面	２色刷り	10,280	２カ月掲載

掲載月は、①1・2月②3・4月③5・6月④7・8月⑤9・10月⑥11・12月の６パターンとなります。
掲載状況は、下記をご参考としてください。
また、詳細につきましては、ぜひお問い合せください。

広　告　掲　載　欄

広　告　掲　載　欄